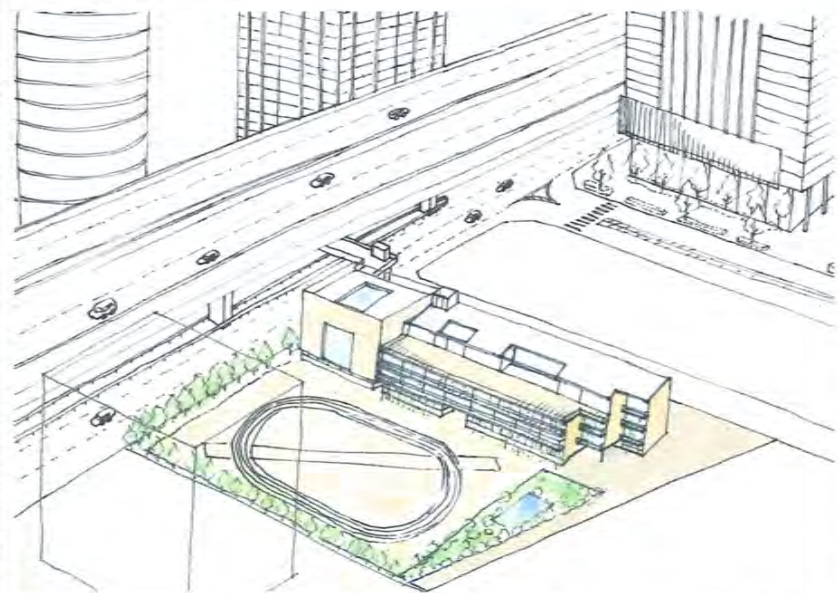


課題：みなとみらい21地区にふさわしい、魅力ある学校施設のあり方について

① 施設の設計に関する基本的な考え方について

10年暫定の学校といっても、この建築空間の中で子ども達が人生の重要な時期を過ごすことには違いありません。子ども達の寄り処として、楽しい記憶の場所として、豊かな学び舎づくりを提案します。また、暫定的であるとしても地域コミュニティの拠点になることを目論んだ計画とします。



- ・みなとみらい21の学校として先進性と伝統を兼ね備えた建築とします。
- ・建物と自然環境、建物と子ども達が寄りそう関係をつくり、地域に開かれた学校とします。
- ・横浜の歴史的街並や色彩を反映する材料を選定し、レンガ、タイル、フローリング、他手仕事を必要とするアートワーク等で構成します。
- ・インテリアには木質系を使用し、元気のでる色彩をとり入れ、使いやすく、壊れにくいことを前提としながらも、人にやさしい空間とします。

■配置計画について

敷地南側に校庭をとり、普通教室を南面させる配置を前提とします。高速道路側には、屋内運動場を配置し、教室との緩衝帯となるようにします。



■地域に開放された学校

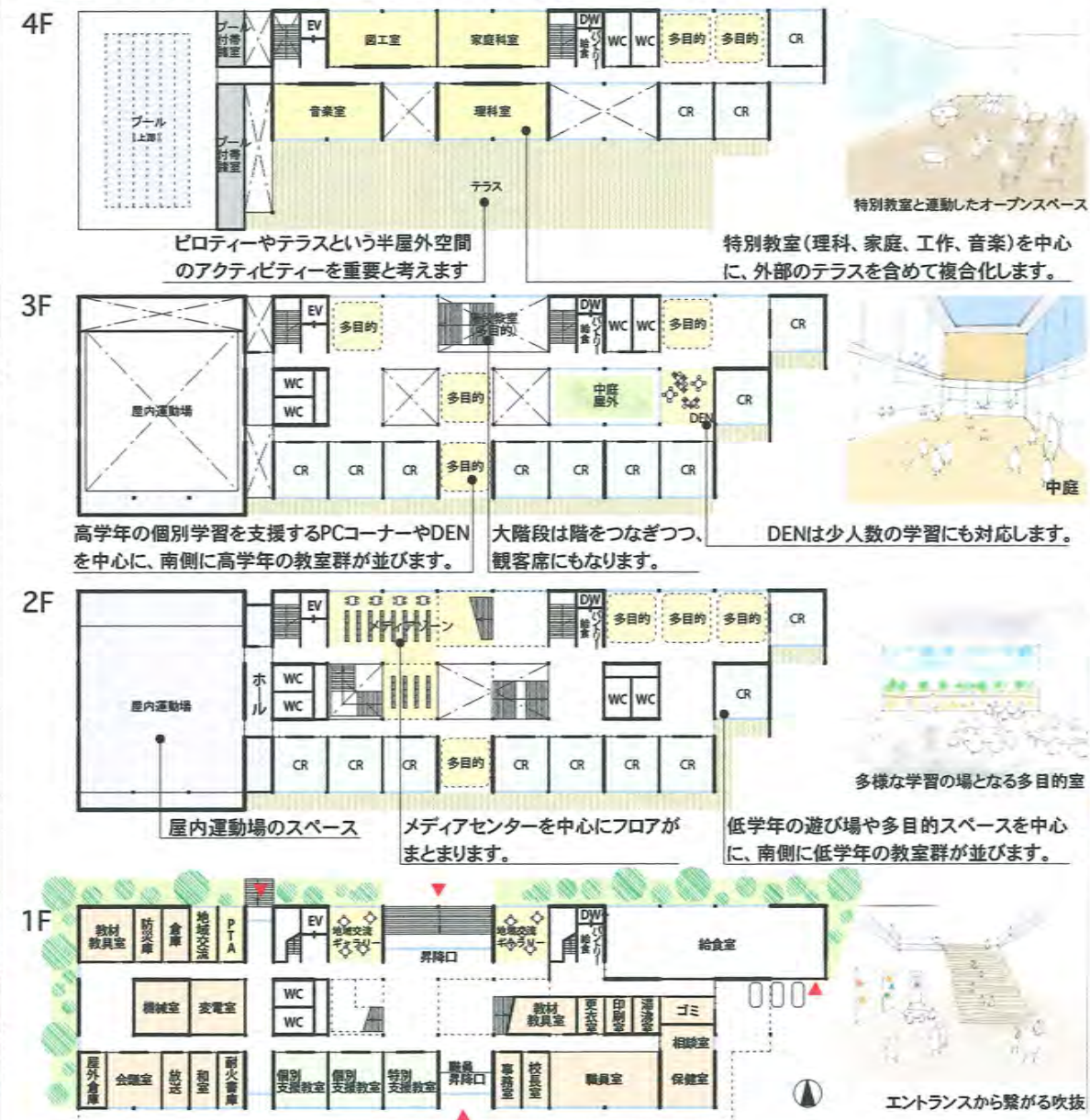
- ・国道1号側には緑地を、敷地北側の通路側も緑化した歩行空間とし、学校の玄関および地域、PTA諸室を配し、ギャラリーや大階段のスペースを面させて、学校と地域のインターフェースとします。
- ・屋内体育館等、一部地域に開放できるように考慮した配置計画とします。

② 快適な学習・教育環境に配慮した計画について

子ども達の身体スケールや行動を考え、4階建てが限度と考えます。校舎にアトリウムや中庭空間を取り込みつつ、屋内体育館も含め、学校全体がまとまりのあるものとします。4層の構成によって階層の断絶や行動の妨げにならぬよう、子ども達がスムーズに移動でき、活動の領域をひろげることのできる動線計画、気配を感じる構成とします。

■各階ゾーニングについて

- ・普通教室を南面させながら、テラスや中庭を組み込み、学年ごとのまとまり、学年間のつながりを考えた計画とします。
- ・多目的室と普通教室の配列を考慮し、各学年にふさわしい空間の構成をおこないます。
- ・廊下やテラスDENといった余白となる大小いろいろなスペースをちりばめることによって、子ども達がそれぞれに居場所をみつけられるような構成をとします。



■断面計画について

様々なアクティビティを相互に感じられる様に校舎の中央部に立体的な吹抜空間を作ります。



③ 省コスト、省エネルギー、低炭素対策について

■建築の考え方について

- ・騒音対策として2重サッシを採用します。
- ・施設の利用時間が短いので内断熱とします。
- ・南側は庇、グリーンカーテンを設け、東西の日射をさげ、日射取得をコントロールし、屋光利用を積極的に行います。
- ・北側は窓を適度な大きさに設定し、エネルギーを効率的に使います。

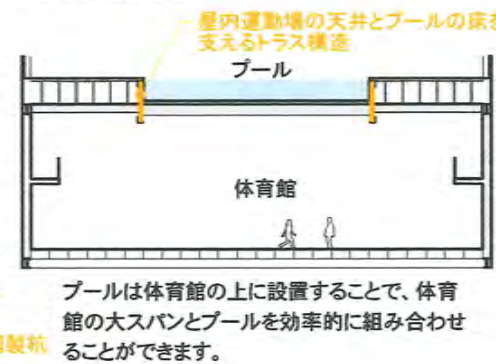
■構造の考え方について

- ・汎用性があり、経済的な8mグリッドを採用することで、施設のフレキシブルな利用を可能にします。
- ・体育館と一般校舎を連続させることで、壁量をバランスよく配置させることができます。
- ・鋼材量の最も効率的、経済的な鉄骨ブレース構造とします。
(杭工事) 羽根付き鋼管杭とし、撤去可能とします。
(基礎工事) 基礎下に防振ゴムを挟む絶縁工法を採用し、近隣の高速道路や鉄道の振動から教育環境を守ります。また、基礎梁も鉄骨造(外周部のみ鉄筋コンクリート造)とし、容易にリサイクルできる様にします。

・絶縁工法



・体育館詳細図



■設備の考え方について

- 〈空調計画〉 短期間の利用の建物なので、イニシャルコストのかかる熱源を建物内に持たずに、地域冷暖房の冷温水を使用します。室内の空調はFCUとし、静かな北東側から、フィルターを介して給気し、高速道路側に排気することで、窓を開けなくてもよい換気計画とします。
- 〈換気計画〉 メディアゾーンなど大きい空間から給気し、小さな教室から排気します。屋内運動場やプールは地域冷暖房の豊富なエネルギーを有効活用し、一般市民に開放しやすくできます。
- 〈雨水利用〉 雨水を中水利用します。

